

## 〈学術研究集会傍聴記〉

## 日本フットボール学会 16th Congress 傍聴記

支 磊\*

Lei ZHI\*

2018年12月23, 24日の二日間, 千葉県印西市の順天堂大学さくらキャンパスで開催された日本フットボール学会に参加した。今回で16回目になる日本フットボール学会は「トップアスリートの強化と育成を考える」をテーマに, ラグビー, アメリカンフットボール, サッカー, フットサルに関わる多くの研究者及び指導者が参加した。今回のフットボール学会は, 「Footballに関する科学的研究とその発展に寄与するとともに, 会員相互及び内外の関連機関との交流を図ることと, 多くのFootball愛好家, ファンの皆さんと共にFootballを発展すること」を目的としていたが, ポスター発表が90件, 口頭発表が60件と非常に多くの研究者らが参加していた。なお, 研究発表は, 口頭発表では発表10分, 質疑応答4分, ポスター発表では60分の発表時間の中で自由討論をする2種類に形式が採用されていた。

大会の1日目には, 基調講演において「トップアスリートの強化と育成を考える」をテーマとして, 東京大学運動会アメリカンフットボール部ヘッドコーチである森清行先生が, 活躍できる選手に育てることを目指す育成法において様々な観点があることを講演された。午後は同じテーマでのパネルディスカッションがあった。2020年東京オリンピックやパラリンピックに代表として出場するトップアスリートの指導法や, その育成にかかわる指導者についての発表がなされた後, 強化と育成をどのようにしていくのかについて登壇者によって討論された。

大会の講演を傍聴し, 最も印象を残ったのは, 1日目午後のシンポジウムである「傷害予防とコンディショニング」という講演であった。サッカー日本

代表監督である森保一監督によるオープニングスピーチとオープニングセッションでは, ファシリテーターやチームドクターによって, 例えば個人の観点や現場の状況などから傷害予防のためには, 選手個人個人のコンディショニングの把握や, 選手の身体状態に合わせてトレーニングするについての重要性が述べられた。私は傷害予防に興味があり, このシンポジウムを聞き, 傷害予防は一つプログラムではなく, 選手の全体的な状況を把握した上で, 系統的なトレーニングや回復を図ることが必要だと感じた。

今回, 私は筆頭著者として「FIFA11+の運動強度および移動特性」という演題でポスター発表を行った。学会でのポスター発表が初めてなので, 発表と自由討論は大変緊張した。また, 私は中国出身なので, 母国語でない日本語での発表やコミュニケーションなどが不安で, 質問者に納得してもらえるのかについても心配であった。しかし, どの質問者もその状況を理解してくれて, 私はゆっくり説明することができ, また大変有意義な質問やアドバイスも頂いたので非常に勉強になったと感じた。2日目には「Road to Qatar 2022」とテーマしたクリスマス特別シンポジウムが開催された。2022年開催のカタールサッカーワールドカップに向けて, Footballをはじめすべてのスポーツにおいて, 更なる進化が求められることが強調されていた。

2日間の学会への参加を通して, 私の研究に参考になる多くの情報を得ることができた。特に, トップアスリート, 育成, 傷害予防という自分自身の研究テーマのみならず, このような学会に参加することで自分の研究テーマ以外の様々な知識を身につけることが出来た。これからも, 研究をしっかりと続け, その成果を発表できるように取り組んでいきたいと感じている。

\* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程2年  
Graduate School of Health and Sports Science,  
Juntendo University